



静岡市役所で行われた協定締結式

静岡DACプロジェクト スラッジをコンクリート材料に 循環経済モデルの確立へ

連携協定
を締結

タケ・サイト、大林組、鈴与商事、三菱商事
建材と静岡市は1月31日、「静岡DACプロジェクト」

「エクト」の実現に向けた連携協定を締結した。同プロジェクトは、産業廃棄物である生コンスラッ

ジを材料に用いて「DAC (direct air capture)」を行い炭酸塩を生成。炭酸塩をカーボンネガティブなコンクリートの材料や、工業用炭酸カルシウムの代替品

として利用するための技術開発を行うもの。

今後、同事業をサーキュラーエコノミーのビジネスモデルとして確立するため、5者で連携して取り組んでいく。

DACは、大気中のCO₂を直接回収する技術の総称。同プロジェクトでは、生コン工場から発生する生コンスラッジをDACに用いることで、低コストで二酸化炭素の回収を可能とする。CO₂を固定した炭酸カルシウム微粉末を生成、カーボンネガティブな材料として様々な市場へ供給することを旨とする。

タケ・サイト 武田雅成代表取締役

自由席

新たなプラットフォームに



▽：「静岡DACプロジェクトでは、生コンスラッジを用いてCO₂を固定し

た炭酸カルシウムを生成し、これを用いてカーボンネガティブなコンクリートや、工業用炭酸カルシウムの代替品を生産する。脱炭素ドミノの基点となる環境と経済の両立を最終的な目標とする」と話すのは、タケ・サイトの武田雅成代表取締役。同社ら5者による静岡DACプロジェクトの実現へ向けた連携に関する協定締結式で語った。
▽：「今後5年以内に大規模なプラントを建設して、本格的なDAC事業を展開する。このプロジェクトを、新たなプラットフォームとして全国に発信していきたい」